

質問回答

NO.	質問	回答
1	<p>・対象国で調査するシナジー型プロジェクトが複数想定する場合、応募書類の提出は以下のいずれになりますか。</p> <p>(1)プロジェクトごとに応募書類を作成し、複数提出する。</p> <p>(2)対象国で1つの「シナジー型プロジェクト」とし、応募書類は1通として複数のプロジェクトを記載する。</p>	<p>本事業においては、事業開始から1年後にJCM設備補助事業への応募書類が整っていることを前提としています。</p> <p>そのため、複数案件を同時に実施することは現実的ではなく、原則として1件の案件に集中して検討いただくことを想定しています。</p> <p>なお、複数の実現可能性調査を実施する場合には、プロジェクトごとに個別に提出してください。</p>
2	<p>・応募書類が1通でよい場合、費用対効果（調査費用÷CO2削減量）は下のいずれで計算すればよいですか。</p> <p>（例）プロジェクト1（削減量：1000トン/年、実施期間：5年）、 プロジェクト2（削減量：500トン/年、実施期間：10年） 調査費用：2000万円</p> <p>(1)プロジェクトごとに費用対効果を示す。 プロジェクト1：20,000,000÷（1,000×5）＝4,000円/トン プロジェクト2：20,000,000÷（500×10）＝4,000円/トン</p> <p>(2)プロジェクト全体で費用対効果を示す。 プロジェクト：20,000,000÷（1,000×5+500×10）＝2,000円/トン</p>	<p>上記を参照のこと。</p>
3	<p>(1)応募様式（別添2） 4. GHG削減効果の4-2で応募事業のCO2削減量を記載することになっているが、計算根拠は記載しなくてよいのか。昨年度の実務様式には「算出根拠」の項があったが、今回はない。</p>	<p>応募様式（別添1）4の計算根拠については応募書類の段階では不要です。ヒアリングの際に、必要に応じ確認させていただきます。</p>
4	<p>(2)調査事業概要（別添3） 英語のシートがないが、昨年度と同じものと考えてよいのか。公募要領（別添1）では英語版を提出することになっているので、シートを追加頂きたい。</p>	<p>日本語版を基に英語版も作成ください。</p>
5	<p>(3)調査事業概要書（別添4） 英語のシートがあるが、日本語のシートと形式（記載項目）が異なっている。日本語のシートと同じ形式で提出すると考えてよいのか。そうであるなら、概要書のシートを変更頂きたい。</p>	<p>日本語版と英語版で記載いただく内容は異なります。</p>
6	<p>小規模な設備の土木工事を目的として外注する費用は外注費への積算対象でしょうか。</p>	<p>外注費への計上で問題ございません。</p>
7	<p>応募様式（別添1）の2ページ目にあります質問事項の「2-1」におきまして本事業中又は事業後の技術導入の実現可能性に関する記載枚数が「A4判1枚以内」であるのに対し、質問事項「2-2」のJCM以外の公的プロジェクトや民間ベースでのプロジェクトによる脱炭素・環境対策技術の導入見込みに関する記載枚数が「A4判4枚以内」とありますがこの記載枚数の情報は正しいでしょうか。</p>	<p>記載に間違いはありませんので応募様式通りをお願いします。</p>